

高野山と比叡山の会社墓

中牧弘允

一 問題の所在

二 会社墓と会社供養塔

三 供養塔建立誌の分析

四 会社の追悼儀礼

五 今後の課題

論文要旨

日本の会社は社葬や物故社員の追悼儀礼をおこなうだけでなく、会社 자체の墓をもつていているところがある。このような墓は会社墓とか企業墓とよばれ、高野山と比叡山におおくみられる。本稿は高野山の会社墓一〇三、比叡山の会社墓二三をとりあげ、その基礎的なデータを提出するとともに、今後の課題を提示することを主な目的としている。

会社墓には創業者の墓や物故従業員の供養塔がたてられている。本稿では、とくに物故従業員の供養塔に焦点をあて、その歴史をあとづけるとともに、名称や形態の分析をこころみている。さらに、関西に集中する会社や組合の地域

的ひろがりや、その業種にも言及している。

会社供養塔には建立誌が付隨することがおおい。そうした建立誌を対象に、その趣旨を七項目に分類し、分析をおこなっている。その項目とは、①建立の契機、②会社発展（先人）に対する感謝、③先人の靈供養、④会社発展に対する祈願、⑤安全祈願、⑥顧客への感謝、⑦高野山や比叡山の贊美である。

会社供養塔にかかる物故者追悼儀礼については、コクヨと千代田生命の事例をとりあげ、若干の比較をこころみている。